

安東会長記者会見要旨

日 時：平成 18 年 12 月 19 日（火）午後 4 時 00 分～午後 4 時 35 分
場 所：J A S D A Q プラザ記者会見場
出席者：安東会長、渡辺副会長、増井副会長

冒頭、渡辺副会長から自主規制会議の審議事項等の概要について、増井副会長から証券戦略会議の審議事項等の概要について、それぞれ説明が行われた後、大要次のとおり質疑応答が行われた。

（記者）

まず、日興コーディアルグループの問題について。資本市場の重要なプレイヤーである大手証券があのような行動に出たということで課徴金を勧告されたわけだが、この件について会長のご意見、お考えを伺いたい。

（安東会長）

報道で知る限りであるが、証券業を中核とする日興コーディアルグループが虚偽記載をしたということは極めて残念だと言わざるを得ない。

（記者）

協会としての具体的な対応はあるのか。

（安東会長）

未だ全貌が分からないが、いずれにしてもその辺りがはっきりした時点で、協会の会員会社である日興コーディアル証券等に何らかの関係があったということであれば、きちんと調査をして対応していきたいと思う。

（記者）

現時点で日興側から協会の方に説明等はあったのか。

（安東会長）

特にない。

（記者）

証券税制だが、優遇税制が１年延長ということで決まったが、この評価と来年以降の協会としての証券税制への取組みをお聞かせ願いたい。

（安東会長）

証券税制のことにに関して、記者会見の場で何度も皆様方からご質問等受けてきたわけだが、１年延長ということに関しては、決して満足のいくものではないと思っている。

ただ、与党内に金融・証券税制のあり方を検討するプロジェクトチームが作られると聞いている。私どもは、証券税制も含め、日本の資本市場のあり方とか、あるいは投資家の育成とかいろいろな課題を持っているので、今日の証券戦略会議で提案し決めたのだが、来年早々にもタスクフォースというかワーキングのようなものを立ち上げて、税制の時期にだけ何かやるというのではなく、そうしたことに抜本的に取り組んでいきたいと考えている。

（記者）

今回が年内最後の会見ということで、年末所感というか、会長に就任されて約半年だが、その間を振り返っての感想と来年以降の課題をどのように考えているのか教えていただきたい。

（安東会長）

私が会長に就任したのは７月であり、その前の段階で、ライブドアとか村上ファンドとか、いってみれば証券市場を舞台にした様々な事件があったのだが、そうしたことに對して前会長を中心にきちんと対応が出来たと考えている。

しかし、今後を考えた場合に課題は当然いくつかある。私は就任時に「躍動感に満ちた活力ある資本市場の構築」、あるいは「公平、公正、透明性のある証券市場の確立」といったことを申し上げてきたが、先ほど示したタスクフォースも含めて実践に移していきたい。

いずれにしても、証券市場が信頼されるものでないと投資家が増えてこないのでは、そのあたりを重点的に取り組んでいきたいと考えている。

（記者）

日興コーディアルグループの虚偽記載の関係だが、監視委員会の方で

は組織的にやったという見方であり、日興側の説明では担当社員の過失とかミスだということが分かったということで、双方にかなり乖離があるため、一般の投資家の方や株主の方からすると良く分からないということなのだが、この点についてはどのように見ているのか。

（安東会長）

会見による説明が充分なのか不十分なのかは良く分からない。しかし、社員が1人で行ったというような会見であったが、一般常識では、1人の判断で日付の変更等は、やりにくいのではないかと思う。

（記者）

そういう点では、おそらく日興側の説明は説明としてあると思うのだが、監視委員会の認定は非常に重いと思われ、そう考えると会社としての責任、もう少し具体的にいうと経営責任という問題がどうしても出てくると思う。この点については、経営陣の責任の取り方として日興なりの責任の取り方はあると思うのだが、経営責任についてどのように見ているのか。

（安東会長）

今言ったようなことが組織的に行われたというようなことになれば、責任の取り方というのは、また違ったものになるかもしれない。

以 上